

第3回岩出市上水道事業運営審議会

議事概要

1. 日 時 平成27年10月20日(火) 13時30分から15時30分
2. 場 所 岩出市中央公民館 2階 第1会議室
3. 出席者 会長他委員10名、事務局7名
4. 議 題
 - (1) 前回議事概要の報告について
 - (2) 具体的施策及び実施スケジュールとフォローアップについて
 - (3) 水道事業ビジョン(素案)について
5. 会議形式 公開
6. 傍聴者 なし
7. 議事概要

司会者 開会

会 長 挨拶

- (1) 前回議事概要の報告について
- (2) 具体的施策及び実施スケジュールとフォローアップについて
 - 具体的施策について
 - 実施スケジュールとフォローアップについて
- (3) 水道事業ビジョン(素案)について

(説明終了)

主な質疑応答

質疑 説明資料20ページの経年化管路の補修・更新というところの業務指標という項目があるが、(2)から(6)の給水拠点の整備までの表で岩出市水道局は平成25年度の実績であるが他事業体は平成24年度となっているので平成25年度と平成24年度の両方を書いてもらった方がわかりやすいのではと思いますが。

事務局 平成24年度の数値も記載するようにします。

質疑 それから、(6)の給水拠点の整備で9月の防災訓練で根来小学校の方へ行ったときに学校のプールの水をろ過して飲み水にするポンプがありましたがそのポンプは消防のものか、水道局のものなのか？

事務局 市の総務課のポンプです。

質疑 12ページで省エネ型機器の導入および水道システムの再構築ということで下の具体的施策の中で自然流下による配水システムへの移行を検討することで消費エネルギーの削減に努めますと記載されており、その下の図の配水エリアの見直しで桜台エリアが大きく変わっています。これは桜台の方へもポンプで汲み上げてから下へ流すという計画だと思いましたが、今までの配水エリアの状態で新しい機器を導入してどれだけ電力が下がるのか、配水エリアを振り分けた時点での電力の下がり方は、あまり変わらないと思うのですが。

事務局 左の配水エリア図の緑の部分が東坂本から西国分の配水エリアとなっており、直送で24時間連続してポンプ圧送による給水をしているので、直送による給水をやめ、桜台から東坂本へ自然流下に切替えた場合、ポンプの稼働時間が減少するので、今ある機器でも電力の削減になります。

質疑 8ページの下での具体的施策で社会環境の変化を勘案しながら料金体系を含めた財源確保の検討を行いますとありますが、今後も少子高齢化が進み人口が減っていき、納付者が少なくなる中で水道環境を維持していくためには、料金的な問題があると思いますが、料金が高くなる場合の観点もしくは安くなるという観点も含めて検討していくということですか？

事務局 給水人口は今のところ増えていますが、給水収益は下がりつつあり、将来的にも計画では、55,000人を上限として給水人口が減って行く環境の中で、施設更新にかなり費用が必要であると想定されますので、将来的には料金を上げる必要性が発生すると考えられます。

質疑 料金を上げるというのは必要なことですが、人口が減るということは、水道を使う面積が減ります。例えば、山地区の人口が減っていくので多いところへの人口集中することで料金体系のアップを防ぐことが可能なのか？

事務局 施設の規模の見直しという話もあると思いますが、ダウンサイジングにより今の管の太さなどが適正であるのか、管網解析を行うことで過剰な整備にならないよう必要最小限の更新を図り、少しでも料金を上げることを遅らせなければならぬと考えます。

補足として、料金体系そのものが岩出市では、現在用途別の料金体系をとっています。

口径別の料金体系として、水道管の口径で料金を変えるという方式を全国の約半分の団体が採用しています。

また、今は逦増料金制として、使えば使うほど料金が上がる料金体系となっています。

将来的には逦増制をやめてどれだけ使っても同一単価というように料金体系を見直すことも考えられます。

質疑 岩出市地区内でどこに住まわられていても水道が出るということが前提です。それについて、費用が上がれば住民に説明をして納得してもらえらると思ひますが。

ただし、過大な施設、必要以上なもの、例えば給水人口5万人に対して10万人分の施設整備をするのであれば、住民が納得しないと思ひますが。

今後、空家が増えて水道の漏水が増えると思ひますがどのような対策をしていますか？

事務局 メーターの手前で止水してあります。

また、本管の取り出し部分等での漏水が考えられますので、漏水調査を地区別にするなどして、漏水箇所の修繕を行ってあります。

今後、人口密度が徐々に下がっていくことにはなりますが、特定の地域に住民がかたまって住むというこは考えられないので、家があると必ず水道が必要になると思ひます。

今後、更新していく中で、管の大きさとかいろいろなものが過大にならないように、投資額を抑えながら更新し、将来にわたって維持管理費がかさばらないよう考えていかなければなりません。

質疑 人口が減ってきている中でコンパクトシティという考え方があり、長期的に人口が減る中で、知事は和歌山県の人口が60万人になりそうなのを70万人に押さえ込むということを言っていますが、それでも3割の人口が減るのですが、そういう中で人が住むエリアがばらけて、ほとんど住んでいないエリアの人に対して、行政サービスをどう供給していくのかが、今後の非常に大きな課題になってきています。

それは、日本全国の課題となり、たとえば山間部の限界集落といわれるような水道が通っていないところに多いのですが、今後、岩出市だけではなく、

県内の他の市町村と連携していく中で、上水道サービスをどうしていくのかというプランを作っていくということが一番大切だと思います。

すぐには無理ですけど、行政の方針でいろんなものやっけていくことと世代が変わるにつれて移行していくということで、水道はやっぱりそういった中で考えていかなければいけない課題かなと思います。

18ページのアセットマネジメントの観点からの更新計画は、たとえばどんな感じですか？

事務局 水道ビジョンと並行して老朽管の更新計画を業者で手がけてもらっています。

岩出市には、第一次拡張事業として施設整備が昭和50年頃にされた地域がございます。

法定耐用年数40年に近づいてきていますが、40年でそのまま更新するのか、1.5倍の60年まで使用するのか、そのような問題になっています。

質疑 実際、長期的な観点から財政事情を含めてどのタイミングで、更新計画を立てて実際の工事を進めていくかということですね。

事務局 付け加えますと、水道の配管の諸元の能力があるのか台帳を作成します。日頃、点検をしますので点検した台帳をもとに、諸元と提携した情報を配管ごとに診断しましたら、更新する時期を見通して、最後に財源を見通すということがアセットマネジメントです。

質疑 岩出市の人口は5万人ですが、全地域で水道はありますか。

事務局 民家の無い山間部は、給水エリアに入っていません。

質疑 5番目の省エネ型機器の導入および水道システムの再構築で、家庭においても一番削減しようと思うのは、電気料金だと思うのですが、2016年ごろから電力の自由化でいろんなところで安く電気が入るとあって、私たちにとっては、エネットといって太陽光発電をつけたりしているのですが、電力の契約を見直すとか空地を確保して太陽光発電で電力を受けることも一つだと思います。

後は、人口が少なくなることについては水道局だけの問題ではなく行政が一つになって、他県からきた人に空き家を有効に活用することで、世帯も増えて、水道の問題もなくなるのではないのでしょうか。

また、再生エネルギーとかを上水道の方で考えていますか。

関連でどこかの自治体でやっている事例があればお願いします。

事務局 9月の議会で質問があったのですが、電力の自由化に向けて検討していくというのが、市の方針であります。

施設の中でろ過池の上にソーラーパネルを置いて運営している自治体も出てきていますが、岩出市は今のところ考えておりません。

人口としては、微増ですがこれから日本政府として出生率とかの話がありますので、市についても施策を充実していかなければいけないと考えます。

質疑 施設が広くそう高くないので、ろ過池の上部を利用した太陽光発電というのも一つの方法であり、再生エネルギーに関しても安定した供給ができるかが、浄水施設で一番重要になってきます。

さらに、災害の起きた後に早急な復旧が出来るための電力の確保の検討と省エネだけでなく、災害後の安定した電力供給ができる施設に変えていくということになってくる。

水道ビジョンにこういうものを入れていくということが書かれており、27ページのスケジュールの中で環境負荷の低減のために省エネ型機器の導入とかフォローアップということで見直しを行うことを進めていって下さい。

事務局 そのように進めていきます。

質疑 25ページのところで給水拠点整備されていない状況ですと書かれていますが、何年何月に整備が決まりますか。

事務局 最終、平成37年度までに整備します。

質疑 ここ数年でどこの場所に作るということが決まってないのでしょうか。

事務局 市の方では、災害時の避難所が決められていて、下水道を整備する時に、マンホールの蓋を開けて使えるトイレを設置していて、流す水も必要になるので事業に併せて、水道の方も避難所に給水ポイントを設置するよう検討してまいります。

質疑 東日本大震災の時に、水がなくてもトイレに行くということで、下水の処理が一番問題になっていました。マンホールトイレを作るということで水の供給も同時に考えていかなければいけないと思う。あと、配水池を給水拠点にするといったことが行われています。

また、前回話のあった公園の下に緊急の貯水槽を作るといういろんな方法もありますが、岩出市の一番良い方で適しているのはどうなのか考えてください。

事務局 陸前高田市の方へ応援に行った時、安全なところの消火栓から給水車で水を汲んで運んだので、給水車が必要になってきます。

避難所に水の供給があると、そこに給水車がいらなくなります。

そういったことも考えられますので、総合的に考えてどの方法が一番低コストで安全性が高められるのか検討して、考えていきます。

質疑 表紙の全体の感じはいいように思いますが。

事務局 根来寺はいいのですが、SLはどうかと事務局の方でも意見ができました。

質疑 紀の川の写真で夕日ではなく他の紀の川の写真にした方がいいのでは。

新緑の紀の川の写真をいれてもらえればと思います。

事務局 今言われました、2つの写真については、事務局でも同様の意見がでておりました。

質疑 新浄水場の写真は載せないのですか。

事務局 3-1にある写真だと建設中ですので載せられません。

質疑 さぎのせ公園で子供たちが遊んでいる写真とかを載せたらと思いますが。

1-1策定の趣旨で平成16年度に水道の現状と将来見通しを分析、評価した水道の将来像を示す「水道ビジョン」を策定し、平成25年3月には、この水道ビジョンが改正され、新たに「新水道ビジョン」が策定されましたとありますが、いつまでが将来になりますか。

事務局 50年後、100年後を見据え、10年、20年を想定しています。

質疑 水道ビジョンはいずれ見直しをするのですか。

事務局 第8章の2のフォローアップのところでは5年毎に水道ビジョンを見直すこととしております。

質疑 水道ビジョンで持続、安全、強靱とありますが、安全というところで、岩出市は鉛管が残っているところがありますか。

事務局 一部残っているエリアもあります。

質疑 和歌山市では、鉛管を取り替えています岩出市ではどうですか。

事務局 平成26年度に一つの団地で引き込みを取り替えました。

ちなみに、本管には鉛管はありませんが、工事の時、引き込みに鉛管が見つかった場合は取り替えています。

質疑 水道ビジョンの中の4章で個々に現状を書いてあって、5章は、50年後の人口、施設・管路の老朽化資産の割合、更新にはいくらかかり、技術職員も少なくなっていくって職員が必要だと書かれていて、5-4でいきなり箇条書きになってきているのでなんか、つながりが悪いように思います。

それと、6章では6-1基本理念が書かれていて、持続、安全・強靱と3つのキーワードからなっていて、5-4の課題の整理とかが合わない。

5-4の課題の整理の中の安全な供給で水質監視の強化が6-2の施策体系では、水質管理体制の強化となっていて主要事業になってなく、実現化方策になっているので、文言の統一とか用語の整理を見直して欲しい。

事務局 見直すようにします。

質疑 私の要望ですが、水道ビジョンの中に開催記録と委員名簿を最後のページに入れることを提案します。

事務局 水道ビジョンの最後のページに載せるようにします。

質疑 パブリックコメントについて、必要であるかどうか、事務局の方での考え方は。

事務局 市の長期総合計画がありますが、アンケートを実施していて、水道に対するコメントもありましたが、あまりいい意見がありませんでした。

今回の審議会の中には、一般の委員さんに入っていていただいておりますので、今回のパブリックコメントについては、特に必要ないかと考えています。

まとめ 具体的施策と実施スケジュールとフォローアップで特に7章のアセットマネジメントという資産管理・運用といったものを前提としていきながら更新を進めていくということ。

財政のことを考えていかないと財政破綻をしたいと思います。

アセットマネジメントの概念を入れた最適な水道ビジョンは、50年後の岩出市で人口が4万人に減ったときに水道事業が経営できているような形でビジョンを考える。

50年先は様々な状況の変化があると思いますので、当面の具体的な施策は、10年、20年先を目処に考える。

この方針を水道ビジョンに盛り込んでいくということ、具体的施策で職員の技術の継承、民間活用の検討、省エネ機器の導入が持続で、水質の監視強化が安全で、施設・管路の更新・耐震、給水拠点の整備が強靱を実施していくということ。

さらに、フォローアップのところで5年毎に見直すということ。

次回審議事項

- ・岩出市水道事業ビジョン最終案について
- ・上水道事業運営審議会答申（案）について

8. 次回日程

平成28年1月14日（木）午後1時30分から